

川口市立安行小学校の実践 ～地域とともにある学校づくり～

1 実践のねらい

- 学校、保護者及び地域住民等との連携強化を進めることにより、相互の信頼関係を深め、一体となって児童の健全育成に取り組む。
- 児童の多様な体験活動の推進、安心・安全と環境整備の推進、家庭や地域の教育力の向上に努めて、学校・家庭・地域の絆を深める学校づくりに取り組む。

2 事業計画

	活 動 内 容
学習支援	1年生：さつまいも調理（生活科）、昔遊び体験（生活科） 2年生：町探検（生活科）ヤゴ取り（生活科） 3年生：わたしの安行じまん（総合的な学習の時間） 4年生：環境アドバイザーの話を聞く会（総合的な学習の時間） 地域のお店のリーフレットづくり（社会） ロボット学習（総合的な学習の時間） 5年生：琴体験（音楽）、ミシン学習補助（家庭科） 特別支援学級：草木染め、紙すき体験 全校：書きぞめ教室
安全支援 (P生活指導部)	登下校時の見守り活動（地域老人会・交通安全ボランティア・保護者・教員による）、夏祭りのパトロール、子ども110番の家 毎月25日「ニコニコあいさつデー」（保護者・地域の挨拶運動と登下校指導）、持久走大会の安全支援
環境支援 (P美化部)	側溝清掃（夏休み）、学期末の大掃除の手伝い PTA美化作業（児童、保護者、おやじの会、地域の植木屋さん）
読み聞かせ活動	毎週金曜日の図書ボランティア「くすのきおはなし会」による読み聞かせ、勉強会、本の選定、図書室の本の整理
おやじの会 (P文化部)	安行小まつり（PTA文化部、おやじの会、教職員）の企画運営 運動会・持久走大会の会場設営やコース整備、施設・設備の修繕や整地作業、感謝集会出席

3 活動内容（学校側の意見を反映した活動、特に力を入れている活動、新しく取り組んだ活動、工夫したことなど）

(1) 安行小まつり

11月9日（土）前日準備～10日（日）安行小まつりに向けて、企画運営会議（PTA 文化部、おやじの会、教職員）で検討を重ね、一体となって児童の体験活動の充実や豊かな心を育む活動を連携して行っている。また、環境団体と連携した竹とんぼ教室やツリーライミング体験、自然環境を生かした動物ふれあいコーナー等も特色ある活動である。

★PTA 文化部：まとあて、射的、スタンプラリー

★おやじの会：模擬店（焼きそば、フランクフルト、チョコバナナ、豚汁、タピオカ）

- ★児童のお店体験：各自が作ってきたものを「くすのき」という模擬通貨で買う購買体験
- ★児童会：ヤギのエサ募金、ラオスの子どもたちが作成した手作り品の購入による募金活動
ラオスのオラウータン救済の募金活動
- ★教職員：コンサート、お楽しみマジックショー、七輪によるせんべい焼き



(2) 紫友の会、交通安全ボランティアによる登下校の見守り

紫友の会は地域の町内会発足の老人会であり、散歩と兼ねて学校の名前が入ったたすきをかけ、基本的には毎週木曜日（内1名はほぼ毎日）児童の登下校を見守ってくださっている。児童からも「サンタのおじさん」と呼ばれ親しまれている。交通安全ボランティアは毎日登下校の際、旗を持ち交差点に立ってくださり、安全な登下校を支援してくださっている。

(3) 感謝集会

2月26日にPTA、民生委員・児童委員、紫友の会、おやじの会、くすのきおはなし会、交通安全ボランティアの方々を招待し、感謝集会を開催した。昨年度までは感謝給食を行っていたが、より多くの方を招待するために、集会という形をとった。この変更により多くの方が参加することができ、児童が大勢の方に支えられているということを実感できたり、普段はあまり交流ができなかったボランティア同士の交流を行うこともできた。

4 学校応援団登録人数、活動日数（単位：人、日）

【学校応援団登録人数】

H29	H30	R1
52人	155人	160人

【活動日数の内訳】

まちづくり活動	学習活動	地域人材育成	郷土学習	クラブ・部活動	環境整備	その他（安心・安全）
0日	49日	0日	3日	0日	0日	179日



5 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 学習の場に専門家や有識者の方が入ってくださることによって、専門的な知識や技能の活用により、学習活動に対する興味・関心が高まり、学習活動が充実した。
- ・ 安行小祭り等の行事などを通して、児童と学校応援団の方々との交流が盛んになることで、豊かな心や社会性が育まれるとともに、保護者や地域の方々の学校への理解や関心も高ってきている。
- ・ 地域連携だよりやホームページによって開かれた学校づくりを進めることができた。
- ・ 今年度より新たに行った行事の感謝集会によって、学校に関わってくださっている方同士の繋がりができ、連携が図れるようになった。

(2) 課題

- ・ 連絡協議会を定期的に開催して、成果と課題を確認する必要があること
- ・ 地域の中からのコーディネーターの発掘と新たな組織や年間計画づくりを行うこと
- ・ 参加者の把握と名簿の管理の徹底、地域人材の確保、新規の団員を募ること
- ・ 学校や地域の方々に学校応援団の活動を広く知っていただくこと